

テーマ 「音楽科における言語活動の充実～主体的・創造的な音楽活動を目指して～」

1. テーマ設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、音楽科の改善基本方針について次のように示されている。

「音楽科、芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。」

「鑑賞領域においては、音楽に関する言葉などを用いながら、音楽に対して、生徒が、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力を育成するようにする。」

表現・鑑賞の活動において、ただ歌ったり聴いたりするのではなく、思いや意図を持って表現することや味わって聴くことなど、生徒が主体的に音楽活動に関わることが示された。また、音楽に関する言葉を用いながら根拠を持って批評することは、創造的な言語活動である。音楽の授業では、生徒が音楽を共有する。一つの曲をみんなで鑑賞したり、みんなで一つのを創り上げていく過程で、言葉による表現が必要になってくる。例えば歌唱では、歌詞の内容を理解し、それに合った表現方法を楽譜を見ながら考え、話し合っってより良い表現方法を生徒自身が見つけるなど、言語活動を通して生徒自身が思いや意図をもって主体的・創造的に音楽活動に取り組むことができることを目指してこのテーマを設定した。

2. 本年度の研究について

本校の研究主題である「言語活動の充実」を目指して、音楽科では表現・鑑賞の両領域において音楽活動の中に言語活動を取り入れながら研究を進めてきた。生徒達が声、音、言葉によっていかに主体的・創造的に表現することができるかを意識して取り組んだ。学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2に「第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。」として（7）アにおいて「生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。」とある。学校教育における音楽は、個人よりも全体で創り上げていくものであり、それが他教科にはない音楽の特徴であると考え。全体で一つのを創り上げていくためには、お互いの思いや考えを知ることが必要であり、言葉で伝え合うことが不可欠である。

表現活動の歌唱において、歌詞の内容や曲の構成を理解し、その曲に合った表現方法を考え、文章に表し、班で話し合っってから全体で共有し、よりよい表現を工夫する活動を行った。この活動においては、まず歌詞の意味を読み取る言語的な力や曲の構成を理解する音楽的な力が必要となる。そして次に自分で考えた表現方法を文章に表す力、それを班で話し合う力や全体に伝える力が必要である。それらを総合し、最後に音楽表現をするというように、言語活動と音楽活動が一体となった活動であると考え。

また、鑑賞活動において、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」の「B 鑑賞」(1)アには、第1学年で「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」第2学年及び第3学年で、「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」と明記されている。曲を聴いて生徒が抱いたイメージや感情を言葉に表すことによって、一過的なものではなく、生徒自身が自ら感じたことを確認することができる。そして、それらを交流し、他の人の感じ方や解釈を知ること、さらに一つの曲を深く味わうことができる。生徒一人ひとりが自分の言葉で感じたことや解釈したことを主体的に表現し、それを全体に伝え共有することができるように、音楽的な用語や基礎知識を身につけながら鑑賞活動に取り組んできた。

3. 成果と課題

生徒一人ひとりが主体的に音楽の授業に臨むことができるように、授業のはじめに今日の学習課題を確認し、その課題に見合った自分の課題を設定させ、学習カードに書くようにしてきた。授業の終わりには振り返りをし、1時間の活動の中で身についたことや次時の課題を考えさせた。1年生では最初のうち、自分の課題設定が難しく、何を書けばいいかわからない生徒もいたが、日々の積み重ねの中でほとんどの生徒が具体的な課題設定ができるようになり、課題達成のために主体的に取り組むことができるようになってきた。カードに自分の言葉で書くことで前向きに授業に取り組むことができたと思う。ただ、個人の課題設定や文章表現をするのに時間差があるのも事実である。自分の言葉で表現させたい思いがあるので、そのように学習カードを作成してきたが、時間との兼ね合いも考慮してこれから改良していく余地があると思っている。

歌唱活動における言語活動では、曲から感じたことを文章に表し、表現の工夫を考えることに取り組んだ。歌詞の内容から表現を考えることができる生徒は多くいるものの、曲想記号や曲の構成と関連づけて考えることには課題があり、音楽的な基礎知識を身につけることの大切さを感じた。ただ、生徒一人ひとりが表現方法を考え話し合うことができたので、曲に対して思いを持って表現することができたと思う。音楽会の練習においても、楽譜を基に自分たちの録音した歌声を聞きながら、よりよい表現を目指してパート別や全体で話し合い、表現につなげることができた。

鑑賞活動においては、感想にとどまることがないように曲目解説をし、聴く視点を示した上で、曲の要素や構造と自分が持ったイメージを関連づけて文章に表すことができるように取り組んできた。3年生は大部分の生徒が要素や構造を根拠にして自分が感じたことやイメージを文章に表現することができているものの1、2年生はまだ要素や構造と曲想とを関連づけて文章に表すことに課題がある。「強弱があった」「テンポが変わった」など要素を知覚することはできていても、それを曲の雰囲気と関連させたり文章で説明することが難しい生徒もいる。3年間の系統立った指導の必要性を感じる。また、他の人の考えや感じ方を知り、より深く鑑賞するためにも、生徒同士で自分が感じたことを話し合う活動の大切さを感じる。今後はさらに鑑賞における話し合い活動の時間をもっと取り、生徒が主体的に鑑賞活動に取り組むことができるようにしていきたい。

表現・鑑賞両領域において、音楽活動と言語活動は関連している。文章表現であれ、話し合いであれ、全体で創り上げ、音楽表現していく過程の中で言語表現は不可欠である。今後も言語活動の充実を目指して、生徒一人ひとりが主体的に音楽に取り組むことができるよう授業づくりをしていきたいと考える。

① 題 材 二つの旋律が重なり合うおもしろさを味わおう「あの鳥のように」

② 題材について

学習指導要領の音楽科の改善基本方針について、「音楽科、芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること」と示されている。思いや意図をもって表現するためには、歌詞の意味を解釈したり、曲の構成や曲想記号を理解したり、部分の感じの違いに気づき、どのように表現すればふさわしいか考えたり話し合ったりするなどの言語活動が必要になってくる。

本題材である「二つの旋律が重なり合うおもしろさを味わおう」では、二つの声部に分かれ、旋律と旋律の重なり方の効果を生かして合唱を楽しむことがねらいである。まず歌詞を解釈し、次に旋律を聴いて感じたことを個人で文章にまとめる。そして歌詞、旋律の双方からどのように表現していけばよいか考え、グループで交流し、全体のものにしていく。言語活動を行うことで、表現方法について共通理解を図り、全体として一つの曲を作り上げていく喜びを味わえるようにしたい。

本教材「あの鳥のように」はA・B・Cの3つの部分からなっている。Cの部分はAとBを重ね合わせているパートナーソングであり、旋律の重なり方に意識を向けさせたい。また、弱起で始まるAの旋律と強起で始まるBの旋律の出だしの感じの違いに注目させ、ふさわしい歌い方を工夫させたい。

生徒達は前期前半に「明日という大空」を学習し、その際にも歌詞やメロディから表現方法を考えて歌唱に取り組んだ。本教材でも、その学習を生かしさらに生徒達が表現を楽しむことができるようにしたい。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や旋律から曲を解釈し、ふさわしい表現を工夫する。 ・二つの旋律が重なり合うおもしろさを味わい、表現を工夫して歌う。
音楽への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や旋律から曲を解釈しようとしている。 ・曲にふさわしい表現方法を考えようとしている。 ・旋律の重なりを感じ、楽しんで歌唱に取り組もうとしている。
音楽的な感受や 表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気を感じ取り、それぞれの部分にふさわしい表現を工夫している。 ・演奏方法の違いによって旋律の重なり合いに生まれる変化を感じ取っている。
表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、曲にふさわしい表現方法で歌っている。 ・互いの声を聴き合い、美しい声で二部合唱している。

④ 学習計画 全5時間（本時は1時間目）

学習過程	学習の中心	言語活動の視点	観点
曲の解釈 表現の工夫 ①	歌詞や旋律から曲を解釈し、ふさわしい表現を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、旋律から曲にふさわしい表現方法を考え、文章に表したりグループで話し合ったりする。 ・グループで話し合った内容を全体に伝える。 	関感
音取り・歌唱練習 ②	音源から音取りをし、練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パート練習の際によりよい表現方法について話し合ったり教え合ったりする。 ・パート練習で工夫した表現方法について全体に伝える。 	関感 技

録音・歌唱練習 ①	二部合唱し録音する。表現が工夫できているか注目しながら聴く。	・録音を聴いてパート・全体で表現について話し合う。	関 感 技
合唱のまとめ・録音・振り返り ①	学習したことを生かして二部合唱を工夫し、録音する。学習の振り返りをする。	・学習の振り返りをし、ワークシートにまとめる。	関 感 技

(道徳的視点) 1 - (2) 希望・勇気、強い意志 1 - (4) 真理愛、理想の実現
希望と勇気をもって、力強く自己の人生を切り拓こうとする心情を育てる。

⑤ 本時の目標

・歌詞や旋律から曲を解釈し、曲にふさわしい表現方法を考えることができる。

(関心・意欲・態度) (音楽的な感受や表現の工夫)

⑥ 本時の展開

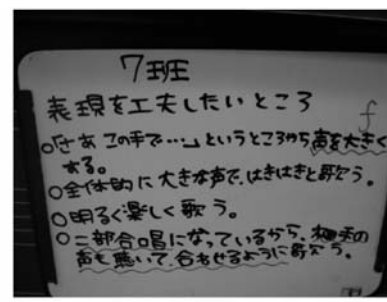
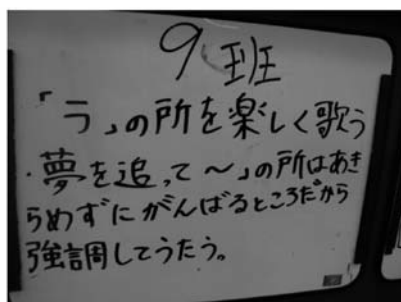
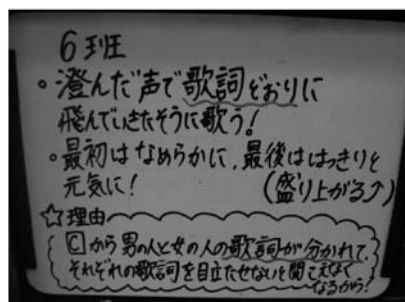
学習活動	教師の指導	備考
○本時の課題を確認する。	・本時で学習する内容を確認し、個人の学習課題も考えさせる。	ワークシート
○「あの鳥のように」の歌詞を読み、解釈し、イメージを膨らませる。	・壮大で力強いイメージを感じられるようにする。	
○旋律を聞く。	・曲の構成や各部分の感じの違いに気づき、文章に表すことができるようにする。	指導用CD
○歌詞や旋律からふさわしい表現方法を考える。	・歌詞や旋律と、表現方法を関連づけられるようにする。	
○グループで話し合う。	・一人ひとりが自分の考えを話し、グループでまとめられるようにする。	班用ホワイトボード
○全体に発表し共有する。	・根拠を持って発表できるようにさせる。 ・曲の構成や曲想言語などを確認する。	
○本時の振り返りをする。	・各グループの発表を踏まえ、次時からの学習につなげるようにする。	

⑦ 結果と考察

生徒達は、本教材に取り組む前に、別の歌唱教材においても歌詞やメロディから表現方法を考える活動をしている。楽譜を見ながら曲を聴いて、曲にふさわしい表現方法をまず自分で考え、文章に表し、班で話し合う。そして全体場で代表が発表し、共有を図った。その際には、歌詞の意味を理解し、曲想の変化を感じ取ることはできている生徒がいたものの、なぜそう考えたのか根拠を持って話し合うことには課題があった。その理由として、ワークシートに書いてはいるものの、自分の言葉で伝えたり説明したりすることに慣れていないことや、記号や用語などの音楽的知識が不十分であることが考えられ、基礎的なこ

とを身につけた上での継続的な活動の必要性を感じた。本教材では前回の活動を踏まえ、生徒達がふさわしい表現方法を考え、根拠を持って話し合うことを意図して取り組んだ。根拠を持って自分の考えを話すことができるように、創作活動で音符や記号の学習をしたり、鑑賞活動で楽器の音や曲の構造と自分が持ったイメージを関連づけて文章に表すことに取り組んだ。その結果、生徒達は、歌詞・旋律から歌詞の意味、曲の形態、曲の構成、音符の長さ、曲想の変化、オブリガートと主旋律のバランスなど様々な要素を感じ取ることができていた。そして、それらを根拠にし、表現をどう工夫すればよいかを自分の言葉でワークシートに表し、一人ひとりが班で自分の考えを出し、話し合うことができた。共有する場面では、それぞれの班が根拠を挙げて表現の工夫を考えることができていた。他の班の考えを聞いて新たに考えを深めることができていた生徒もいた。

しかし、この授業では言語活動に重きを置きすぎ、音楽表現の時間をとることができなかったことが反省である。次時から歌唱表現に取り組んだものの、生徒達が考えた表現の工夫を少しの時間でもやはりその場で、歌唱によって表現する時間が必要であったと思う。そうすれば、音楽活動と言語活動がもっとつながりをもつことができたと思う。ただ、生徒一人ひとりが自分なりに表現方法を考え、話し合い、深め合うことができたために、教師主導の表現ではなく、生徒達で表現を創り上げることができた。録音した自分たちの歌声を聞いて、自分たちの目指す表現に近づけるためにどうすればよいかをパートで話し合ったり練習したりすることもできた。主体的に表現できるように、鑑賞や創作などの活動とも関連づけながら、歌唱において今後もこの活動を継続していきたい。



学習カードから

<表現を工夫したいところ>

- ・全体的になめらかなので歌うときも流れるように歌いたいです。出だしがややこしくなると思うので、出だしをはっきりと歌う。
- ・**A**は普通の音量で歌って**B**からはもり上げて明るく元気に歌う。**C**は最後だから**A** **B** **C**の中でも一番力強く大きな声で歌う。
- ・全体的に明るい曲なので、楽しく明るく歌いたいです。**C**から二部合唱になっているので、合うように歌い、他のパートのことも考えて歌いたいです。
- ・「ラララ・・・」と歌詞が一緒になるところは、歌詞の中で一番強調したいところだと思うから、歌詞のある方の人は大きく力強く歌ったらいと思う。
- ・途中からリズムにのっている感じがしたので、リズムにのる。明るい感じがしたので表情や声を明るい感じにする。
- ・最初はずんで大きな声で楽しく歌う。「さあ」というところからのばす音がふえたり、少しだけ伴奏もなめらかになるので、優しく語りかけるように、また希望を持って少し強く歌いたいです。
- ・2パートが重なるところがもり上がっているから最初からだんだん大きくしていけばいいと思いました。「ラララ・・・」と歌っていくのは、少し小さめがいいと思いました。なぜかと言うと「ラララ・・・」とちがうパートのもり上げ役が「ラララ・・・」なので、ちがうパートを消さないように小さくするといいと思います。

<学習の振り返り・次時の課題>

- ・自分の目標通りにいっぱい考えられてよかったです。次からは工夫したいところを気を付けて歌いたいです。
- ・今日は歌うときに工夫することを学習したので、次回歌うとき今日のことをいかせたらいいなと思います。
- ・工夫するところはとてもたくさんありました。これからは、今日学習したことに気をつけてがんばりたいです。
- ・符号（f、mf）のことも考えて歌ったり、歌詞を考えながら歌う。目標を達成できたと思いました。
- ・今日は班全員の意見、クラス全員の意見を聞いて、いろんな工夫の仕方がわかりました。次は今日話し合ったことを生かして歌いたいです。
- ・いろいろなところを工夫したら、ふつうに歌うより絶対いいと思った。
- ・どうやったらうまく歌うことができるか、みんなの意見を聞いて何かつかめた気がします。
- ・今日はいっぱい人がいてきんちょうしたけど自分の考えを班の人々に発表できました。
- ・初めてきく曲をどう歌うか考えました。違う班の歌い方の工夫が聞けてよかったです。
- ・とっても楽しかった。次は今日学んだことを生かして、うまく歌ってみたい。
- ・工夫するところは二人でハモるところをきれいに。色々な意見が出たので、そのことを工夫したいです。
- ・次からは「f」とかの記号を見てこう歌うとかを考えていく。もう少しもり上がるところとかを理解する。
- ・自分達の班の意見だけでなく、他の班の人の意見も聞いてよかった！歌い方が分かったので、今度はそのように歌う。
- ・楽しかったです。他の人の意見を聞いて、そういうのもあるなと参考になりました。

